

トルコ為替週報

2022年5月10日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去2週間の動き＞

(4月26日～5月9日)

USD/TRY: 14.7400～15.1300

TRY/JPY: 8.58～8.84 (参照値)

過去2週間のトルコ・リラ相場は、断続的な反発を織り交ぜながらも、基調は明確に軟調。9日には対ドルで15.0を割り込み、5ヵ月ぶりの安値を更新した。局面的な値動きで目を引いたのは、まず、28日のリラ反発。この日、トルコ中銀が①22年末のインフレ予想を(1月予想の)+23.2%から+42.8%に引き上げ。同時に②地場金融機関に対し、リラ建資産を担保に、低利の90日物資金供給を実施すると発表。更に、③最短2年間、国内債券(リラ建国債?)に投資した外国人投資家に「ドル建換算利回り4%」を保証すると伝えられた。①は現実の追認に過ぎず、意外感はない。②と③は敢えてリラ押し上げ要因と読めなくはなかったものの、前者の詳細は未だ不明で、後者に至っては「情報筋」から流された観測以上の何物でもなかった。この日、リラは対ドルで若干の反発を見せたが、上述②、③に反応したよりは、並行して進んだ円急落、リラ/円の急騰に引っ張られた値動きだったのだろう。同日開催された日銀金融政策決定会合が、円相場(輸入物価)の安定よりも長期金利の安定を優先する姿勢を明らかにしたと解釈されたことが円売り材料視された。3日、4日のリラ反発は、トルコ市場休日で流動性の乏しい環境下進んだが、値幅が出た割に(注1)、特段の材料は見当たらなかった。5日発表されたトルコ4月CPIが市場予想を上振れたのは、それでトルコ中銀が利上げに動くわけでもない事実と鑑みれば、敢えてリラ安要因と読むこともできたが、+70%近い予想が2%ポイント余り上振れたのは誤差の範囲を超えない気がした。それよりも、同日、トルコ貿易省が、4月貿易収支が61億ドルの赤字になるとの速報値を発表したことが、前後してのリラ安、その後9日に至るまでのリラ安を招いたものと考えられた。

＜過去2週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/29	7:00	貿易収支(USD)	3月	-8.17bn	-8.20bn	-7.96bn
	8:00	外国人観光客(前年比)	3月	+129.7%		+186.5%
5/5	7:00	CPI(前年比)	4月	+69.97%	+67.80%	+61.14%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(5月10日～5月16日)

USD/TRY: 14.950～15.250

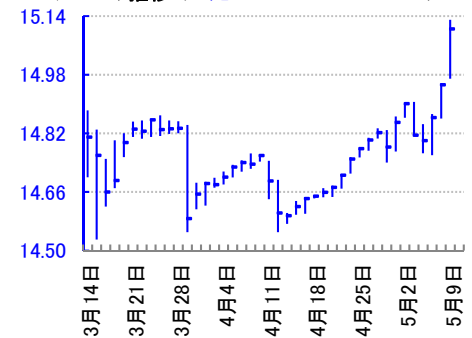
TRY/JPY: 8.50～8.70

向こう1週間のトルコ・リラ相場は、軟調推移継続を中心に予想。5日、9日に見られたリラ急落は、それぞれ「トルコ勢不在中の不自然(不必要?)なリラ高の修正」「対ドルで15.0を割り込んだことで加速したテクニカルな売り」の結果と考えられた。また、ユーロ、円などに対するリラ堅調方向に寄った水準感は、足元対ドルでのリラ安にもドル全面高の色彩が濃い事実を突きつける。ただし、リラ安の基調の背景には、やはり、貿易/経常赤字からくる外貨買い需要を穴埋めする/打ち消すだけの対内(証券)投資がほぼ潰えた構図があるものと考えられる。つまり、リラ売りを抑制するために導入した「オフショア市場におけるリラ流動性供給制限」などの実施的な資本規制が、外国人投資家によるトルコ向け投資を断ち切ってしまった(注2)結果と言える。だからこそ、5日のトルコ貿易省の発表が、ここまでのリラ売りを招いたのだろう。上述②、③は、いずれも投資促進策と言え、同国の経済成長戦略が引き続き低金利を梃子にした積極的な投資とリラ安とを追い風とした(輸出)競争力強化に拠っている事実を物語っている。投資促進自体は悪いことではなからうが、一般的なマクロ経済の常識によれば、同時にそれは物価押し上げにも直結する要因。勿論、トルコ経済の「常識」はその対極(投資コストの低下=価格抑制要因)にあるので、その点、議論しても意味のないことと言えるが、昨年9月のトルコ中銀利下げ再開以降の経緯を振り返れば、少なくとも現在に至るまで、物価抑制にも、貿易/経常収支改善にも、同成長戦略が機能していないのは明白なように思われる。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

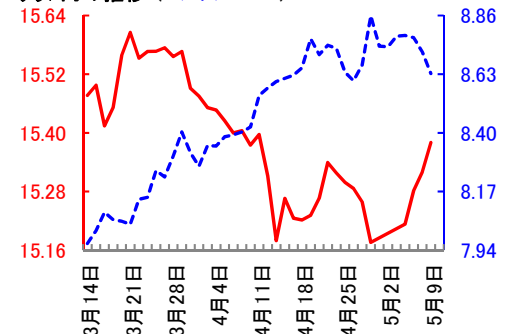
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/10	7:00	失業率	3月			10.7%
5/13	7:00	鉱工業生産(前年比)	3月			+13.3%
	7:00	小売売上高(前年比)	3月			+6.2%
5/16	7:00	経常収支(USD)	3月			-5.15bn

USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



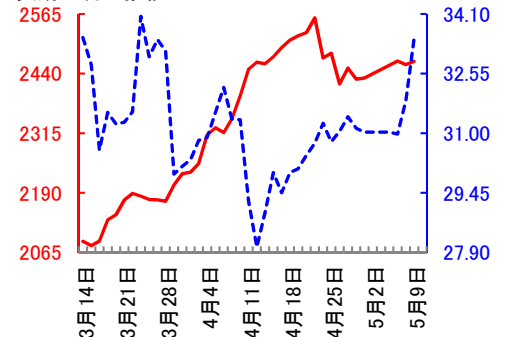
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン17:00)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q4	+9.1%
失業率	2月	10.7%
消費者物価(前年比)	4月	+69.97%
鉱工業生産(前年比)	2月	+13.3%
小売売上高(前年比)	2月	+6.2%
貿易収支(USD)	3月	-8.17bn
経常収支(USD)	2月	-5.15bn

(注1) 4日の欧州時間引け後(時間外)に、一時、対ドルで14.7200まで上昇している

(注2) 投資家の心理として、売りたい時に迅速に売れない資産は買えない

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。